

第30回長野県中山間地域農業直接支払事業懇談会次第

日 時：令和3年6月14日（月）

10時00分から12時00分

Web会議

○出席委員

相澤委員、内川委員、中澤委員、羽生委員、早川委員、山岸委員

○県出席者

農政部農村振興課：飯島課長、中沢企画幹、田中主事

1 開 会

○事務局

本日は、大変お忙しい中をご出席頂き、誠にありがとうございます。

ただいまから第30回長野県中山間地域農業直接支払事業懇談会を開会します。

私は、本日、進行の農村振興課中沢でございます。新型コロナウイルスの影響によりオンラインでの会議となりました。それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

議事に先立ちまして、農村振興課 課長の飯島からごあいさつ申し上げます。

2 あいさつ

○飯島課長

農村振興課長の飯島でございます。本日はWEB会議にご参加いただき誠にありがとうございます。

第30回長野県中山間地域農業直接支払事業懇談会の開催に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

平素より長野県の農業、農村の振興に格別のご支援・ご協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。また、何かとご多忙のところ、当会議にご参加いただき、誠にありがとうございます。

さて、本事業につきましては、農業生産条件が不利な中山間地域におきまして、耕作放棄の発生を防止し、農業農村の持つ美しい農村景観等の多面的機能を確保する観点から耕作放棄地の発生防止や農業・農村の持つ多面的機能の確保を目的としまして、平成12年度の創設以来、本年度で22年過ぎたところでございます。

1期5年ということで取り組ませていただいておりますが、第5期対策1年目である令和2年度の実績は前年の第4期対策の最終年度を協定数67、参加者数2,531減少ということでございます。各対策の会議の初年度につきましては、概ね減少傾向であり、今年度は参加を見合わせ、今後参入する集落もあることから、若干協定数は増加すると考えられますが、全体的には高齢化や担い手不足を理由として、減少傾向であります。制度としては、約20年前からスタートし、中山間地域の発展、景観の維持等に非常に効果を発揮している事業でございまして、やむを得ず本事業の継続を断念したという集落も多くなっております。

今後、県といたしましても現在取り組んでいただいている集落には引き続き継続していただき、新たな集落の参加の推進を行っていきたいと考えております。

しかしながら、2020年の全国の農業形態として、高齢化などの理由による農業者の減少により、経営体が2割近く減っており、農地の維持等が心配されます。また、統計では、20年間で農業生産者が約半数になり、とても厳しい現状であります。

本事業の詳細について、後程担当より説明いたしますが、本事業は、5年を一対策期間として計画的に取り組む事業で、令和2年度から第5期対策期間が始まったところで、本年度は正念場の2年目でございます。

本日の懇談会では、令和2年度の本事業の状況についてご説明・ご確認をいただくとともに、中山間地域における総合的な農業の振興を図るため、豊富な知識と経験による幅広い見地から様々なご意見を頂戴して、県内の中山間振興に私たちが取組んでいくためのアドバイス等いただければと思っております。

以上簡単ではございますが、ごあいさつとさせていただきます。

本日はよろしくお願いいたします。

○事務局

本日の資料は、次第・懇談会名簿・懇談会開催要綱、資料1「令和3年度中山間地域等直接支払制度パンフレット」資料2「令和2年度中山間地域農業直接支払事業実行状況」資料3「上田市岩清水集落の取組み」、「信州上田稲倉の棚田パンフレット」、参考資料として「第29回中山間地域農業直接支払事業検討会 委員意見要旨」です。本日の議題及び日程については、次第をご覧ください。

今年の3月に懇談会会員を委嘱後、最初の懇談会ですので、会員の皆様から自己紹介をいただき、座長の選出の後、座長の進行により議事に入ります。

議事（1）「中山間地域農業直接支払事業について」では、パンフレットを用いて、事業の概要を説明します。議事（2）「令和2年度中山間地域農業直接支払事業の実行状況の点検について」では、昨年度の事業実績のご説明の後、ご意見、ご質問をお受けします。議事（3）「長野県における取組事例について」では、上田市岩清水集落の取組を現地集落に繋いでご説明をいただきます。そして、最後に（4）「懇談～中山間地域の現状と課題等について～」では会員の皆様からのご意見を頂戴します。また、本日は、県庁の農業農村支援センターの中山間直払担当も傍聴しています。

3 会員紹介

○事務局

それでは、会員の皆さまから自己紹介をお願いいたします。

○相澤会員

皆さんおはようございます。相澤啓一です。よろしくお願いいたします。

私は、長野県農村文化協会に属しております。当協会は戦後まもなく、農村の文化向上を目的とし活動していますが、全国的にみても、長野県農村文化協会は独特な組織です。特に、平成16年から食と農は表裏一体ということで、食農教育に力を入れ活動しています。小谷村で行われた全国棚田サミットでも、全国で初めて「食」の分科会を開催させていただきました。様々な形で食と農を一体として捉え文化向上のために活動させていただいております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○内川会員

こんにちは。内川義行です。信州大学農学部に所属しております。

私の専門は農業土木学、農村計画学という分野でございます。

中山間地域の土地利用計画や棚田の整備保全計画等を中心とした研究をこれまでやってきておりました。

私は今期からの参加となります。どうぞよろしくお願いいたします。

○中澤会員

皆さまこんにちは。松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科の中澤朋代です。相澤会員とともに、4期からこの懇談会でお世話になっております。

専門学科名には観光とつくので、農村と異なるイメージを持たれると思いますが、環境教育が専門で、エコツーリズムやグリーンツーリズム等を教えています。

中山間地の地域振興につきましては、暮らしそのものも含めて様々な課題・意識をもって、日ごろから活動していますが、オルタナティブなツーリズムを主軸に、どうやって暮らしや社会を創っていくのかという切り口、特に持続可能な地域づくりの確保について活動しております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○羽生会員

飯島町に住んでおります、羽生綾子です。

5年前まで長野県農政部の農業農村支援センターで働いておりました。8年ほど前に、飯島町の農地付き農家住宅に移住をしまして、夫とアスパラ等を栽培している農家です。

農村に住んでいるということで、前職で働いていた時には体験できなかったことを体験しておりまして、今回は、現場の立場で意見を申し上げることができれば幸いです。

どうぞよろしくお願いいたします。

○早川会員

日本政策金融公庫の早川博泰です。初めての参加となりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3つの金融公庫が統合し、現在の日本政策金融公庫になりましたが、私はもともと農林漁業金融公庫の職員でございました。国の政策に基づいて、1次産業及び国産原料を使う食品企業に制度資金をご融資しております。

昨年の8月に長野へ赴任してきましたが、14、5年前にも一度長野県で勤務していたこともございます。

長野県を第二の故郷だと認識しており、愛着も感じておりますので、少しでもお力になれることがあればと思っております。

よろしくお願いいたします。

○山岸会員

こんにちは。消費者の会連絡会副会長の、中野市在住の山岸洋子です。今回から参加させていただきます。

消費者連絡会は、消費者の代表という位置づけをされますが、一消費者の観点から知識を広め、中山間農業の発展に尽力できればと思います。

よろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。続いて、「4 座長選出」です、開催要綱第4条のとおり、懇談会に座長を置くこととされております。

いかがいたしましょうか。

4 座長選出

○相澤会員

第4期の対策から委員をされておられる松本大学の中澤先生には、懇談会でも素晴らしいご提言を毎回頂いており、勉強させていただいています。これらのことから中澤会員が座長に適任かと思い、ぜひご推薦した

いのですが、皆様いかがでしょうか。

（「異議なし」の発言）

○事務局

ご異議がないようですので、中澤様に座長にご就任をお願いします。

それでは、中澤座長様からごあいさつを頂きます。

○中澤会員

座長に選出いただきました、中澤朋代です。至らぬ点多いかと思いますが、現在中山間地域直払制度については、非常に多くの課題があることもお伺いしておりますので、皆様の様々な意見等ふまえ、初歩的な見知も伺いながら、懇談会にて今後の方向性を提案できればと思います。

ご協力をいただきまして、重責を果たしていきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

それではここからは、会議の進行を中澤座長にお願いします。

○中澤会員

それでは、懇談会次第に従いまして、議事を進めますので、会員各位のご協力をお願いします。

最初に、（１）の「中山間地域農業直接支払事業について」、事務局から説明をお願いします。

５ 議事

（１）中山間地域農業直接支払事業について

○事務局

※資料１にて説明実施

○中澤会員

事務局からの説明は以上ですが、ご意見・ご質問等がございましたら、お願いします。

○早川会員

第５期２年目ということですが、新型コロナウイルスの影響で昨年度と同様に集落の協定や、集落戦略作成のための集会は新型コロナウイルスの影響でできなかったと思いますが、実際どのような対応をされたのでしょうか。

○事務局

新型コロナウイルスの影響で話合いが難しい状況であり、集落自体も減少傾向にあります。

しかし、集落戦略の作成や協定は途中からでも開始可能であること、また、書面会議による方法で集落戦略を作成している集落もあるので、そのような方法を活用してほしいと考えております。

（２）令和２年度中山間地域農業直接支払事業の実行状況の点検について

○事務局

※資料 2 にて説明実施

○中澤会員

知事特認の農用地について期の終わりに、国の条件に合わなかった農業用地をカバーするため新たに知事特認の農用地が加わりましたが、ご説明いただいたデータは知事特認された農用地を含んだものなのでしょうか。

○事務局

知事特認の農用地を含んだデータとなります。

○中澤会員

知事特認の農用地について簡単にご説明願います。

○事務局

知事特認対象農用地については、パンフレット 2 ページ記載の 8 法地域と棚田地域振興法に該当しない地域の中、長野県知事が特別に認める地域を定めています。特認要件の資料が手元になく、詳しい説明が出来かねますが、岡谷市などが対象地域に当たります。国の法律で定められた地域以外で、長野県が特別に定めた地域が対象農用地となります。

○相澤会員

交付金の面積について対象農用地の面積が増加しており、カバー率が 84%から 72%に減少しているのはどうしてでしょうか。

○事務局

国が定めた基準による対象農用地のほかに、知事特認による農用地分が増加し、対象農用地面積が増加したことが要因と考えられます。

○中澤会員

単なる数の減少ということだけではなく、質の面で国の定めた基準があるものの、長野県は中山間地の比率が全国的に多く、担い手が減少しているという要因もあり、それ以外のエリアでも対策を打たなければいけない状況であると考えます。よって知事特認が必要な状況だと思います。

○早川会員

協定数の廃止の数が多くなっているのはどうしてでしょうか。

○事務局

第 4 期から第 5 期へシフトするときに、高齢化に伴い協定の継続が難しくなった集落が多かったようです。また、期の 1 年目は集落の高齢化等様々な要因により見送りたいという集落もありました。中には期の最初から参加せず、様子を見て期の途中から参加する集落もあると考えられます。第 4 期にも同様の傾向がございました。

○内川会員

集落戦略の作成について、体制整備活動は、数的にはもちろん質的にも重要であると考えますが、これに対する現状のサポート体制について伺いたい。

サポートを誰がするのか、どのような事業内容なのか、他事業とのリンクについても一度整理していただければと思います。

○事務局

農業農村支援センターによる支援のルネッサンス事業を行っていますが、地域においてソフト活動の活性化を様々なメニューを使ってサポートしていきたいと思います。

○内川会員

前期（第４期）の質問でもありましたが、事業内容の整理がサポートに影響を与えるかと思しますので対応していただければと思います。

○羽生会員

中山間直払い制度の認知度について、直払い制度は約 20 年行っているが、この制度の認知度はどのくらいなのでしょう。また PR はどのような形で行っているのでしょうか。

○事務局

認知度がどのくらいかというデータは持っておりませんが、制度をご理解いただいた上で協定を結んでいる集落が多いことから、制度の PR は今後重要な課題になると考えております。

○中澤会員

集落の会議の在り方も様々であるが、新規就農者の方々が参加できず制度を知らないというパターンもあり得るのではないかと思います。

（３）長野県における取組事例について

※上田市岩清水集落（稲倉の棚田保全委員会）とオンライン中継をつなぎ資料 3 および信州上田稲倉の棚田パンフレットにより説明

○中澤会員

久保田委員長、上田市役所の皆さまありがとうございました。

続きまして、（４）懇談「中山間地域の現状と課題について」です。

各分野に精通されております会員の皆様が感じている中山間地域の現状や課題についてお話をお願いします。

（４）懇談 「中山間地域の現状と課題等について」

○内川会員

集落戦略を策定するにあたっての様々なサポート情報について、情報の整理をお願いします。

懇談会で行われた内容について、どこが反映されたのか、またどこまで反映されているのかが分かるようにしていただきたいと思います。

○事務局

今回の懇談会でいただいた意見は国にも情報提供していきたいと思います。また、国と意見交換する場面もあるのでそのような場で伝えていきたいと考えております。

また、県に寄せられている中山間地域の振興については一度整理してから情報提供をさせていただければと考えております。

○山岸会員

中山間農業の視察が（新型コロナウイルスの影響により）実施できないのが大変残念でありました。

信濃毎日新聞で、中山間地域に関する記事を見ました。（令和3年6月3日朝刊「長野で中山間地の魅力を感じて」、令和3年6月13日朝刊「信毎ヤンジャ 守れ「姨捨の棚田」実れ地域の元気」）想いのある非農業者と中山間地域の農業者との交流が掲載されていました。今後も様々な立場の方々がリンクできるような支援があると良いと思います。この会議もそのような方向を目指していければ良いと思います。

○中澤会員

新型コロナウイルスの影響により、農業体験の農業者がかなり多くなっていると感じています。

引き続きそのような情報収集をお願いしたいです。

○早川会員

長野県は傾斜地が多く、棚田のような綺麗な場所もあるが、担い手がいなくなり、耕作が放置されている農用地も多いです。

栽培に不利な土地ではあるが、水はけのよさ等を活かしてブドウを栽培している新規就農者の事例を見ました。そのような事例が更に広まっていった欲しいし、彼らの力にも期待したいと思います。

里親制度などの制度を利用せず農業者になり、農村集落になじめず農業をやめてしまうという残念なケースも結構多いとも聞きます。

新規就農者の取組や傾斜地を活かした取り組みは多いので、農村の習慣・技術等をより支援していければ良いと考えております。

○中澤会員

付加価値の高い農業をより普及していければと考えます。

○羽生会員

飯島町の営農組織はしっかりしていると思います。農地のことが分からない場合でも制度を利用できます。

今は多面的機能支払の制度を利用しています。

サラリーマンの方でも農業用地を持っているが、制度を知らない人は利用できずに不利益を被ってしまうということも考えられるかと思います。

○相澤会員

コロナ禍によってリモート会議、在宅ワーク、田舎への移住希望増加など中山間地域に人の流れが起きてきている。注意したいのは低密度空間開発ビジネス（集落と隔離したゲートコミュニティづくり）に自治体が走っては困る。集落と連携した「関係人口づくり」に力を入れてほしい。よろしくお願いします。

6 閉会